

視覚障害者のためのあん摩マッサージ師養成セミナー ～技術と接遇の向上を目指して～

社会福祉法人 桜雲会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-14-102

助成事業の概要

本事業では、視覚障害のある人の代表的な職業として、長く職業自立を果たしてきたあん摩マッサージ業のさらなる発展を目的とした養成セミナーを実施いたします。

古くは江戸時代より続いている、目を使わずとも指先の感覚でツボを捉える治療は視覚障害のある人の適職とされてきました。しかし、近年では晴眼者の進出が著しく増加する等、業界内に多くの変化が起きています。あん摩マッサージの専門学校への入学規制緩和（晴眼者の入学が可能となる）や無免許業者の横行も多発しており、徐々に視覚障害のある人の職業自立が困難な状況になりつつあります。

そこで、平成29年9月～10月内の計3回に分け、視覚障害のあるマッサージ師を対象に、「視覚障害者のためのあん摩マッサージ師養成セミナー～技術と接遇の向上を目指して～」を実施いたします。実際に治療所を運営する視覚障害当事者や訓練施設の専門家等を講師に迎え、技術面・接遇面の向上を目指します。

事業の成果

・視覚障害者のためのあん摩マッサージ師養成セミナー ～技術と接遇の向上を目指して～

第1回目

テーマ：「フィンランドのマッサージについて」

講師：木村 愛子（木村治療院）

日時：平成29年9月30日

場所：新宿リサイクル活動センター 2F 会議室

マッサージの基本手技の中で、叩打法とよばれる手技療法はフィンランドが発祥とされています。これは学校等でも習得する代表的な手技として、繰り返し基礎分野から研鑽を重ねることが重要となります。第一回目ではフィンランドマッサージの制度・種類を紹介しながら、実際に参加者を患者に想定した実技指導をおこないました。

第2回目

テーマ：「施術における患者さんとの関わり方」

講師：石川 充英・宮之原 滋（東京視覚障害者生活支援センター 就労支援課）

日時：平成29年10月14日

場所：新宿リサイクル活動センター 2F 会議室

施術中において、技術面と同様に重要な役割を担うのが患者とのコミュニケーションです。日常会話はもちろん、体の痛みがある部分を的確に聞き出し施術をおこなうことで、顧客満足度の向上と併せリピーターの獲得へと繋がります。第二回目では、あん摩マッサージ師を目指す人々が通所する就労移行支援施設の専門家を迎え、施術中における会話の重要性や情報収集のポイントを紹介しました。

第3回目

テーマ：「頸肩部の触察法と手技療法の実際」

講師：斎藤 博（東京都立八王子盲学校 理療科教諭）

日 時：平成29年10月28日

場 所：桜雲会 会議室

第3回目では、国民生活基礎調査により男女問わず肩こりをはじめとする頸肩腕部の痛みを理由に、医療機関で診察を受ける人々が非常に多い点に着目。頸肩部の骨・筋肉を中心とした触察のポイント及び頸肩こりに対する手技療法として、牽引・矯正・あん摩療法についての解説・実習をおこないました。

上記3回のセミナーを通し、視覚障害のある方を対象に技術や接遇の向上について、実技指導等で具体的に提示できたことは非常に有効であったと考えられます。

■ 成果の広報、公表

セミナー開催にあたり、当会発行雑誌「鍼灸の世界 豊桜」や「桜雲会だより」においてセミナー実施要綱を掲載し、参加者募集をおこないました。その他、視覚障害者関係イベント等への出展時にも来場者へのチラシ配布等、本事業の周知徹底を図りました。

また、全3回のセミナー終了後、当日の模様を成果物として収録し、音源を文字化・報告書兼資料として冊子を製作しました。完成後、点字毎日・JB ニュース等の福祉関係マスコミへ掲載依頼をおこない、成果物の広報活動をおこないました。また、当日参加できなかった方にも、セミナーでの内容を共有できるよう、希望する個人へ冊子の配布をおこないました。

■ 今後の展開

本事業では、毎回数多くの参加者が集まり、セミナー終了後には参加者同士の交流が図られ、情報共有の場としても活用される等、同業者間の

ネットワークの構築へ繋がっていったと考えられます。

参加者の年齢層は幅広かったものの、それぞれの立場や悩みについては大きく以下の2つにわかれました。

1. 国家資格を取得したものの就業に結びついていない
2. 治療院へ勤務・開業しているが、客足が伸び悩む現状から脱却を図るためスキルアップをしたい

これまで視覚障害のあるあん摩マッサージ師を対象としたセミナーは数少なく、参加者からは「自分の周りにも同じ悩みを持つ人が沢山いる。今回の様なセミナーに参加して晴眼者の施術師と差別化が図れるような技術を磨いていきたい」等の声を多くいただきました。これを踏まえ、講義だけでなく実践形式を取り入れたアプローチは非常に有効であると同時に、まだ必要としている人々が数多くいることが予測されます。そのため、当会では今後も治療院や専門施設と連携を図りながら、継続的な支援をおこなっていきたいと考えております。